

（2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで）

特定非営利活動法人市民社会研究所

1 2024 年度全体方針

（1）SSK創立20周年記念イベントと中期計画の策定

SSK創立20周年記念イベントを2025年4月5日（仮）に実施することとし、それに向けて過去20年間の活動の総括と今後の5年間の中期計画策定を行う。

（2）居場所を通じた社会的包摂

2024年度から新たに受託する「地域のつながり強化事業」（重層的支援体制整備事業）をSSKの最重点事業と位置づけ、四日市市内の居場所ネットワークの構築に向けて関係者と連携して尽力する。またスプラウトを使った居場所の充実も図る。

（3）ソーシャルビジネスの取り組み強化

- ① ソーシャルビジネスとして伊勢おやき本舗・スプラウトの売上向上を図る。
- ② 三重県のソーシャルビジネスの実態調査及びそれに基づく支援のあり方について、ささえあいのまち創造基金・みえNPOネットワークセンターとともに取り組む。
- ③ 食の輪よっかいちの食品ロスを生かしたソーシャルビジネス創出に参画する。

（4）時代の変化に対応したNPOの特性を生かした就労支援と広報力の強化

ほくサポ、伊勢おやき本舗、スプラウトにおいて、時代の変化に応じたNPOの特性を生かした就労支援を強化するとともに、Youtube等を生かし広報力を強化する。

（5）四日市NPO協会「四日市NPOプレゼンテーション大会」を通じたNPOの政策提言力の強化とこれへの参画

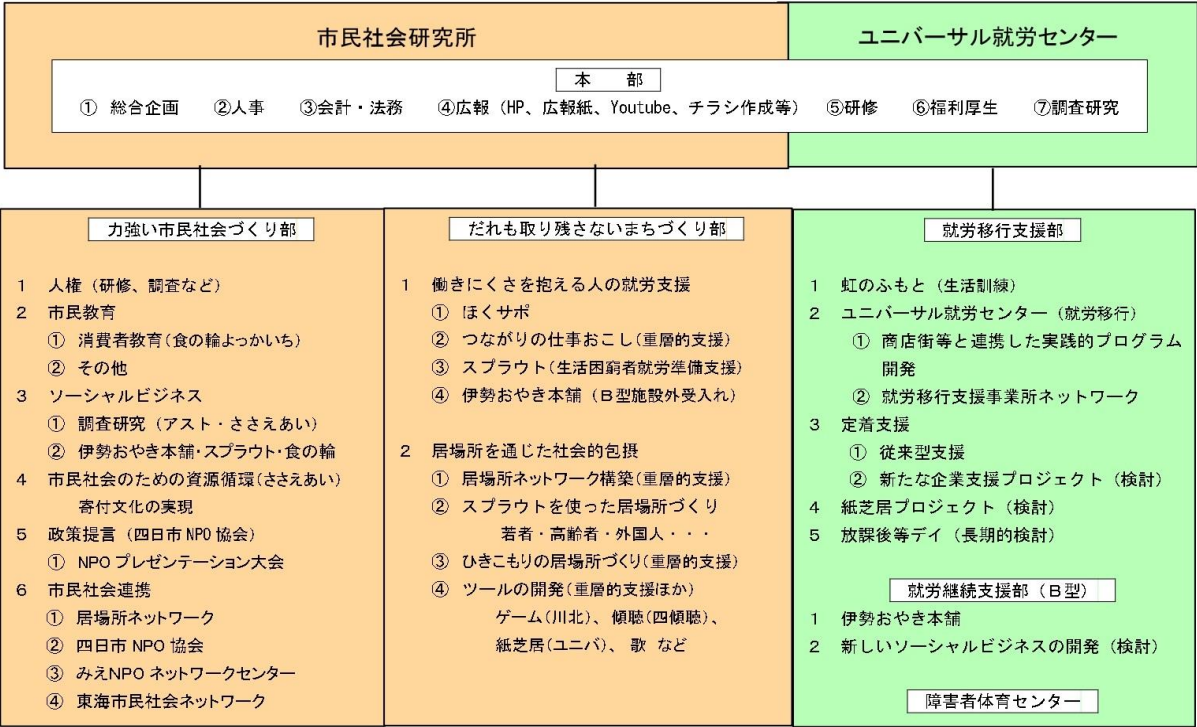
（6）地域貢献の促進

商店街の中にある立地を生かし、「地域のために何ができるか」を考えて活動する。

（7）ユニバーサル就労センターとの組織運営の連携強化と事業体系の見直し（下図参照）

2025 年度以降の組織と取り組み方向（案）

2024 年 6 月 1 日



## 2 市民のための研究室

### (1) 人権

#### ① 「実践行動につなげる人権のまちづくり研修支援事業」(三重県委託事業)

県民に対して「人権尊重の視点に立ったまちづくり」に関する研修会を実施する。  
仕様書では 25 回以上、参加者数 500 人以上とされている。

#### ② その他の人権研修

- ・ 四日市市職員研修 (人権の基本)
  - 4 月 23 日 (火) 新規採用職員 (事務・技術職、保育教育職)
  - 7 月 18 日 (木) 新任課長補佐級職員
  - 11 月 13 日 (水) 係長級職候補者Ⅱ部研修 71 名 (予定)
- ・ 三重県老人クラブ連合会 (9 月)
  - 高齢者の人権
- ・ 四日市市男女共同参画課 (1 月)
  - 性の多様性

### (2) 市民共育

#### ① スプラウト文化教室

スプラウトを使った文化的な講座を実施する。(年間数回程度)

#### ② 食の輪よっかいちが行う食育の協力

食品ロス削減を中心とする事業者と連携した食育に協力する。

#### ③ 連携する組織が行う人権・市民教育に関する事業への参加・協力

- ・ NPO 法人みえ NPO ネットワークセンター (みえ市民活動ボランティアセンター)
  - 未来のシティズンシップ講座、グローバル市民講座 等
- ・ (公財) ささえあいのまち創造基金：四日市市地域づくりマイスター養成講座
- ・ 東海市民社会ネットワークが実施する講座等

#### ④ その他

- ・ 四日市市熟年大学：「地域で市民活動・市民協働を進めるために」

### (3) 市民の政治・行政への参画支援

#### ① 四日市 NPO プレゼンテーション大会 & 政策・事業構築事業 (四日市 NPO 協会) の実施 (別添要項参照)

#### ② 四日市市議会との関係づくり

①の事業を市議会議員有志と共催し、関係性を深める。

#### ③ 連携する中間支援組織が行う人権・市民教育に関する事業への参加・協力

- ・ みえ市民活動ボランティアセンターが行う調査を政策対話の「市民活動に関する調査と政策対話」を行う。
- ・ 東海市民社会ネットワークの活動の参画

### (4) 調査研究

#### ① 各種調査研究

- ア) 三重県のソーシャルビジネスの実態調査とソーシャルビジネスに関する研究
- イ) イギリスの自治体職員と連携し、自治体と NPO の「協働」のあり方についての比較調査研究

#### ② 研究成果の発信

中島久恵会員が執筆した「四日市市内戦争と死者に関わる碑及び施設」の出版の

### 3 だれ一人取り残さない社会づくり（ユニバーサル就労センターと連携）

#### 【就労支援】

#### （１） 北勢地域若者サポートステーション

##### ① 数値目標

- ・就職者等数：120 人（月 10 人を目標）
- ・就職率：80%以上
- ・新規登録者数：170 人（目標は 2023 年度と同じ数値）

##### ② 相談業務

- ・4 月から相談スタッフも揃ったので、質的向上を図り目標達成に向け一丸となる。
- ・就職後のステップアップ支援  
20 時間未満の就労が前年 21 件に対し R5 年度は 36 件と増えている事から、一旦 20 時間以上の就労に就いたものの続かず、時短勤務の就労を希望する傾向がある。それだけ支援の難しさが増している事が伺える。継続的な支援と 20 時間以上を目指す支援を行う。

##### ③ 集中訓練プログラム

今期も年 2 回（40 日間×2 回）のプログラムを開催し、定員 1 回 10 名を実施する。

##### ④ 就職氷河期世代支援

就職氷河期世代支援の 3 年目となり、今期は三重県雇用経済部と連携し「就職氷河期世代に特化したホームページ」をほくサポ HP 内に開設し、より支援を充実。  
（ホームページではワンクリックかつスマホでも見やすい作りにした）

##### ⑤ 講座・セミナー

前年度ステップアップ支援の参加者が 21 人増加した事から、進路決定後も学びたい意識は強く需要があるため継続する。また新規来所に繋がるセミナーを開催したい。

##### ⑥ ユニバーサル就労センター、スプラウトとの連携

- ・利用者の状況に応じたユニバ、スプラウトとの連携を引き続き図っていく。
- ・学校連携事業に伴いユニバーサル就労センターよりスタッフが週に 1 日程度サポステに常駐するようにし就職困難者により広い支援が出来るように対応していく。

##### ⑦ 学校連携・行政窓口連携

- ・学校連携事業に関し拠点校（北星高校）を中心に要望がある関係校と連携を取り 1 月以降の登録と進路決定者数の実績に計上するように流れを構築する。
- ・行政窓口との連携の強化を図る。四日市市役所、商業労政課を始め福祉総務課、保健予防課と連携をはかるように支援を行う

## (2) 伊勢おやき本舗

### ① ソーシャルビジネスの取組み

- ・利用者アイディアでの商品開発を取り入れる。
- ・おやき・サブレ・プリンの商品開発と体制づくり。
- ・おやき・サブレ・プリンの試作・改良・開発継続
- ・これらの取組みにより、年間売り上げ 300 万円を目指す。

### ② 就労支援の取組み

- ・新規利用者受け入れ・通所日数を増やす。
- ・ユニバ・サポステからの訓練受け入れ。
- ・利用者育成のため作業の掘り起こし。
- ・漢字・計算・食生活の知恵等を学ぶ時間を取り入れる。
- ・コミュニケーションスキルを向上させる取り組み。
- ・スプラウトと連携。
- ・イベントへの参加。(利用者と訓練生と共に)
- ・利用者の体調管理フォロー
- ・定期的なケース会議を実施

## (3) トレーニングカフェ・スプラウト

### ① ソーシャルビジネスの取組み

- ・ランチメニュー、午後のカフェメニューについて検討する機会を設け、売り上げの向上を図る。
- ・ドリンクメニューの充実を図る。
- ・大型スクリーン等を活用し、文化講座等のイベントを行い、来店者数の増加を図る。
- ・売上目標は 250 万円とする。

### ② 就労支援の取組み

- ・多様な受け入れ先から、多様な訓練生を受け入れる。
- ・調理や接客等、カフェならではのトレーニング方法を開発する。
- ・トレーニングとその成果についての因果関係の調査を行う。(ヒアリングなど)

## (4) 「つながりの仕事おこし」事業

### 「つながりの仕事おこし」の仕組みの拡大・定着

#### ア) 「仕事おこし人」の拡大・定着

仕事につながりやすい人を新たに仕事おこし人に依頼する。  
分野ごとに複数の人を仕事おこし人とする。

#### イ) 「心ある事業所」(働きにくい人を受け入れる事業所)の拡大・定着

これまで判明している事業所を MAP 上で見える化を図る。

## 【居場所を通じた社会的包摂】

### (1) 「地域のつながり」強化事業

#### ① 居場所ネットワーク構築

##### ア) 居場所キーパーソン会議の設置

分野	想定する居場所キーパーソン (12 人)	対象団体
子ども	・学童クラブ運営者 (1) ・放課後等デイサービス運営者 (1)	・学童クラブ ・放課後等デイサービス
若者	・若者の居場所運営者 (1) ・ひきこもり等支援活動者 (1)	・若者の居場所 ・ひきこもり支援団体
高齢者	・地域の高齢者の居場所運営者 (2) ・認知症カフェ運営者 (1)	・高齢者サロン等 ・認知症カフェ
障害者	・知的障害者の居場所運営者 (1) ・精神障害者の居場所運営者 (1)	・身体・知的・精神障害者の居場所運営団体
生活困窮者	・子ども食堂運営者 (1) ・生活困窮者支援事業者 (1)	・子ども食堂／フードパントリー運営団体
外国人	・外国人の居場所運営者 (1)	・日本語教室運営団体等
その他		・各種依存症支援団体等

6 月 キーパーソン選定・個別ヒアリング

7 月 キーパーソン会議 (第 1 回)

顔合わせ、分野ごとの居場所の現状共有、ネットワーク構築の協議

10 月 キーパーソン会議 (第 2 回)

ネットワーク構築の状況共有、ゲームによる居場所交流会の協議

2 月 キーパーソン会議 (第 3 回)

居場所交流会の協議、居場所ネットワークの今後の展開の協議

##### イ) 既存の居場所との関係構築と居場所ネットワーク形成

6～2 月 キーパーソンと連携し、可能な限り多くの居場所の個別訪問を行う。

戸別訪問の際、後述の「居場所づくりゲーム」の説明を行い、居場所開催の際のゲームの実施を通じて関係を構築する。

3 月 分野を超えて居場所関係者が一堂に会してゲームやパフォーマンスを行う「居場所交流会」を実施し、「ネットワーク」を体感する。

#### ② ひきこもり等の人の新たな居場所づくり

このような取組みを行っている先進事例の視察と、ひきこもりの方の相談支援を行っている団体へのヒアリングを行い、これらを基にした居場所づくりに本格的に取り組む。

##### 【先進事例の視察】

- ・兵庫県神戸市「ひきこもり当事者会」
- ・京都府 「メタバースを活用したオンライン居場所」

##### 【ひきこもりの方の相談支援を行っている NPO 等へのヒアリング】

- ・みえリフレ
- ・北勢地域若者サポートステーション「親サポ」

### ③ 属性や世代によらず、地域住民が参加できるボードゲームイベント

ア) 各居場所の定例会等でのイベント

毎月1～2回程度、分野ごとの居場所の定例会でボードゲームを実施

イ) 居場所交流会

さまざまな居場所の方々が一堂に会して全世代交流ボードゲーム大会を行う。

- ・会場 四日市市勤労者・市民交流センター体育館（予定）
- ・時期 2025年3月
- ・内容 A 全世代交流ボードゲーム大会  
B 居場所ごとの踊りや歌などのパフォーマンス  
C 景品付き抽選会

＊ア・イともNPO法人津市NPOサポートセンター川北輝代表理事に指導をしていただく。

## 4 ネットワーク型中間支援組織の運営・協働

- (1) 公益財団ささえあいのまち創造基金
- (2) みえNPOネットワークセンター
- (3) 東海市民社会ネットワーク
- (4) 四日市NPO協会
- (5) 食の輪よっかいち

## 5 組織基盤強化

- (1) SSK・ユニバ合同研修会の開始

原則 毎月1回

- (2) 広報の強化

- ① Youtube「SSKちゃんねる」「ほくサポちゃんねる」
- ② ホームページのリニューアル

## 6 地域貢献

- (1) 外部団体の研修の受け入れ（SSK+ユニバ）

県立看護大学（6月）

- (2) 四日市市食べきり推進店の協力（スプラウト・伊勢おやき本舗）
- (3) 地域のイベントへの協力（スプラウト・伊勢おやき本舗）
- (4) サポステボランティア
- (6) グリーンモール商店街の会員として商店街の発展に協力